

令和6年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	104	学校名	仙台市立加茂小学校	校長名	坪井 和子
------	-----	-----	-----------	-----	-------

1 取組のタイトル、テーマ 「日常活動の中で取り組むエコ活動」



2 取組の紹介

(1) 授業での取組

<4年生>

4年生は、社会科の学習「ごみのしりと利用」で、ごみの回収や処理の過程を学びます。ごみ処理施設の見学も行います。ごみをできるだけ減らす工夫について知り、しおりや作文で学習のまとめをしました。

<6年生>

6年生は、社会科の学習「町人文化と新しい学問」で、江戸時代の町人たちは、共同で井戸水やトイレを使い、排せつ物は田畑の肥料として活用し、ごみをほとんど出さない社会ができていたことを学びます。学習を通して、ごみ減量の意識を高めています。

(2) 委員会活動での取組

<給食委員会>

給食を残さずに食べることもエコ活動の一つです。給食委員会は、放送委員会と連携して、昼の放送で今日の給食献立で使用された食材の栄養や歴史を紹介し、食べ物に興味を持つことで残食を減らす取組を行っています。

<環境委員会>

環境保護の観点から、毎年環境委員会では、学校花壇の整備を行っています。定期的に除草活動も行っています。“収穫した”雑草を教材園の肥料として活用しています。

(3) 全校での取組

① 除草活動

5月、7月に環境整備を兼ねて、全校で除草活動を行いました。授業前の朝の時間に、学級ごとに活動を行いました。



② ごみの分別活動

各学級では、燃えるごみ、プラスチックごみに分別しています。分別の共通理解ができるように、表示を各教室のゴミ箱付近に掲示しています。給食時に出るストローの袋などのプラスチックごみや、ポケットティッシュの入れ物など、きちんと分別する意識が高まっています。



3 取組の成果（児童生徒の変容）

本校児童は、物を大切に扱うことができます。掲示物は傷つけられたり、破損したりすることがありません。掃除用具の扱いも丁寧で、校舎内はいつもきれいに清掃されています。これは、地域や家庭内での、物を大切に扱う『エコ意識』が深く浸透していることを示しています。

エコ活動は、常に、どこにいても実践可能です。そのためには、児童の実践を支える周囲の環境保護の意識が大切です。今後も可能な限り、学校と地域・家庭とが連携したエコ活動を推進していきたいと考えています。